

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動と神経のしくみ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	203,202
担 当 教 員	新坂 幸大 勝木 翔平	実務経験と その関連資格	看護師			
《科目目標》						
神経系の構造と機能、脳と脊髄について構造と働きを理解する。 末梢神経系と生体リズムについて理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講試験100% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
テキストや自筆ノートでの復習を行う 生理学において口頭で他者に説明できるようにグループワークでの復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
脳神経に関連する機能の正常な働きについて学ぶ。本科目で学習する内容は、病態治療Ⅲや各看護学の展開を考える土台となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能について理解できる	テキスト	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)神経系の分類 2)神経組織の構造と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳と脊髄(中枢神経系)について理解できる①	テキスト	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)大脳 2)間脳 3)脳幹 4)小脳			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳と脊髄(中枢神経系)について理解できる②	テキスト	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)脊髄 2)中枢神経を保護する仕組み 3)伝達路			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経系の構造と機能が理解できる①	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)末梢神経の構造、末梢神経線維の伝達速度 2)脳神経の種類と神経支配、機能 3)脊髄神経と神経叢			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経系の構造と機能が理解できる②	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	4)体性神経系 ①皮膚分節、②膝蓋腱反射 5)自律神経系 ①構造、②神経伝達物質、③自律神経系の働き(交感神経、副交感神経)			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 生体のリズムが理解できる	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。
		各コマにおける授業予定 1) 睡眠と覚醒 2) サーカディアンリズム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 まとめ	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。
		各コマにおける授業予定 理解不足の点を明確にし、理解を深める		
第8回		授業を通じての到達目標 骨と骨格の総論について理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 骨格系の機能 2) カルシウム代謝と骨の役割 3) 骨芽細胞と破骨細胞の働き		
第9回		授業を通じての到達目標 頭蓋、体幹の骨格について理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 頭蓋の骨の名称 2) 泉門について 3) 脊柱を構成する椎骨の名称 4) 椎間板の働き		
第10回		授業を通じての到達目標 体肢の骨格について理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 上肢と下肢の骨の名称 2) 骨盤の形の性差		
第11回		授業を通じての到達目標 関節の構造と種類について理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 関節の名称 2) 屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外		
第12回		授業を通じての到達目標 筋肉の種類と機能について理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴 2) 各筋組織が存在する部位		
第13回		授業を通じての到達目標 筋肉の機能について理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 骨格筋の収縮に関連する活動電位、等張性・等尺性収縮 2) 神経筋接合部とアセチルコリンの作用		
第14回		授業を通じての到達目標 骨格筋の名称と働きについて理解する	テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型	予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。
		各コマにおける授業予定 1) 身体の運動と骨格筋 2) 顔面、頸部、背部、胸部、横隔膜、腹部、上肢、下肢の筋		
第15回		授業を通じての到達目標 まとめ	テキスト プロジェクター マイク	
		各コマにおける授業予定 まとめ＋終講試験		